

## 一ハプニング続出

### ○改修は自分たちの手で

物件の状態が非常に悪かったため、開設準備にも苦勞した。ともかく使えるようにするために自分たちで何とかするしかない。

「庭は竹やぶになっていて、ブロック塀は倒れているし、盆栽は木に育ちきってしまいました。そこで、みんなが泥だらけになって5月の連休の7日間、毎日、10〜15人集まって、朝から晩まで作業をしたのです。空き家の利活用を推進している人たちにその様子を話すと、『自分たちで重機を入れて、岩を除けて、木を倒してなんていう例は、まずない』と驚かれます。でも、全部の部屋をきれいにしなくていい、人が入れる場所さえ確保できたらスタートしようということで始めました」

だから、開設後にもトラブルは続いた。中古住宅で心配なのはやはり配管だ。いままで

誰も使っていなかった家に、人が出入りするようになって、気づいたらトイレの水漏れ。その費用をねん出するために助成金の申請書を出しまくった。スズメバチの巣を市役所に駆除してもらったり、ムカデが大量発生したりと事件は後を絶たなかったが、鉄骨造りが幸いしてシロアリの被害はなかった。躯体に影響はなかったため、家が崩れることにはならなかった。

### ○地域に受け入れられる拠点に

ふらつとのメンバーには地元の住人はいない。草ぼうぼうの空き家と格闘する他所からやって来た彼女たちの姿は、地域の人の目にとどのように映ったのだろうか。そしてふらつとは、地域にどのように受け止められていたのだろうか。

「開設の時、『誰でもお茶を飲みに来て下さい』と書いたチラシを近所に配りました。そ